

目指す学校像	世代を超えて笑顔をつなぐ大砂土小学校の伝統を深化・充実させる ～通いたい、通わせたい、勤めたいと思える学校づくり～
重点目標	1 真の学力の向上と考える力の育成、学びの自律化に向けた指導方法の工夫改善 2 安全で安心できる教育環境の整った学校づくり 教育支援・教育相談体制の充実 3 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働による「地域とともにある学校」の実現 4 一人ひとりの Well-being を大切にしたい持続可能な指導体制の構築のため教職員研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価			
年 度 目 標			年 度 評 価					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数科は、いずれも全国、市平均と比べて良好な結果である。また、全国的に課題となっている「無回答率」も低い。 ○日頃の学習の様子から、学習に対して真剣に取り組む、自らの課題を見出し、主体的に学習に取り組むことができる児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果において、各領域等での顕著な課題はみられないものの、国語の「我が国の言語文化に関する事項」に若干の課題がある。 ○「算数の学習が好きだ」の問いについて、市の平均よりも「当てはまらない」の児童が若干多く、中学校へ向け、数学的な考えについて理解を深める必要がある。	・「真の学力」を育成する学習指導の工夫改善、学びの自律化に向けた情報端末の活用 ・全国学力・学習状況調査による課題克服の工夫と実践	①全国学力・学習状況調査において、教育研究所の「カウンセリング訪問」を受け、その分析から、本校の課題を明確化し、確実な定着を図る。 ②「学びのポイント」(じしゃく)に則った SSSP の授業研究を年間3回以上取り組み、児童の主体的な学習の機会を確保する。	①教職員・児童・保護者に対する学校評価項目、「真の学力」を育成する取組に対して肯定的な回答(よくあてはまる)の割合(21%、52%、18%)向上。 ②「学びのポイント」(じしゃく)を生かした授業研究を実践することができたか。	①市教委のカウンセリング訪問を全教員で受講。学校評価結果は、「21%↗24%、52%↗54%、18%↗21%」に上昇。 ②SSSP の授業は、学校課題研究との関連も取り、3本の研究授業を実施した。教科は算数・社会・理科で、指導者として指導主事・社会科研究会部長を招聘した。	A	○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査における本校の強みや弱みを分析し、その解消を図る。 ○今年度の学校課題研究における基礎研究をさらに進め、より具体的で実践的な研究となるようにする。	○概ね良好  (意見要望) ・現状では、SAの人数が少ないと考える。SAの人数を増やし、児童の学習を充実させてほしい。
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をする児童の割合は、全国・市平均を上回っている。 ○特別支援学級に加え、通級指導教室、Sola ルームが設置され、児童の学びの場の確保が進んでいる。 ○設備の老朽化が著しく、児童の安全・安心な環境の確保が課題。特別教室等が学校規模としては十分ではない。 <課題> ○児童数、学級数の増加はないが、本校の規模で、理科室、図工室、家庭科室は各々1教室しか確保できず、複数学年での授業展開ができない。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に対応した校内体制の充実 ・安全な生活の実現について主体的に考えることができる児童の育成に向けた指導の充実	①教育支援・教育相談体制の確立。おはようメーターの活用や面談の充実を図る。また、Sola 一むの出席状況を確実に把握する。 ②定期部会の集約とケース会議等の情報共有の徹底、組織的対応の徹底に基づく、支援対応を継続し充実させる。	①おはようメーターの見届けによる。Sola 一むの出席者の把握を個票で行い、ファイルにまとめておくことによる。 ②月2回以上の教育相談日の設定と必要に応じたケース会議の開催し、情報共有・組織的対応の充実を図ることができたか。	①メータは確認。教務主任に指示し、sola 一む出席ファイルを作成。出席者及び出席時間、学習内容が分かるようになった。 ②部会の開催及び情報の集約を実施。SC 及び SSW との朝夕2回の情報確認時間を確保。より効果的な支援方法を探る。外部との連携・来校依頼を活発に行った。	B	○sola 一むの出席状況確認だけではなく、次の段階を提案する。例) 教室での受講、教育センターや不登校等児童生徒支援センターの紹介や通学等。 ○引き続き、外部との連携も含め、組織的な対応を行う。	○概ね良好  (意見要望) ・遊具の充実と安全を確保してほしい。 ・学校が自由に使える予算を増やしてほしい。修繕箇所が多いうえに、高額になることが予想されるため。校舎内の雨漏りを直すための修繕費の増額もお願いしたい。 ・引き続き、細やかな安全点検の継続をお願いしたい。 ・sola 一むに専任のボランティアなどがいるとよい。
3	<現状> ○学校運営協議会の熟議を通して、「地域とともにある学校」大砂土小学校コミュニティ・スクールを推進している。 ○地域の方々との御協力のもと、信頼感のある学校づくりに取り組んでいる。 <課題> ○「地域とともにある学校」として、情報共有や情報発信がまだ不十分である。 ○挨拶やコミュニケーションなど、児童に「育てたい力」に関し、教職員が同じ方向で指導に当たっているが、まだ改善の余地がある。	・「地域とともにある学校」としての認知度を高める。 ・目指す児童の姿を地域全体で共有し、教育活動を効果的に公開する。	①学校だよりや HP を通して、学校運営協議会や SSN などの取組を紹介し、目指す児童の姿を周知する。 ②行事や学校公開の在り方について、広く周知し、積極的に学校公開・情報公開を推進する。	①目指す児童の姿の共有に関する保護者へのアンケート調査の保護者の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(昨年度16%)以上となったか。 ②学校の情報公開に関する保護者へのアンケート調査の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(昨年度35%)以上。	①学校評価結果は、「16%↗19%」に上昇。学校だより及び学校 HP で周知。 ②学校評価結果は、「35%↗42%」に上昇。笹岩少年自然の教室や修学旅行の宿泊行事はもとより、校外学習でも児童の様子や活動内容を記した校長メールも発信した。	B	○学校だよりの在り方について検討。(媒体、紙面サイズ、内容等)。 ○安心メールを活用した、危機管理内容の発信及び校外行事における児童の活動の様子を発信。	○概ね良好  (意見要望) ・小学校への架け橋プログラムとして、卒園式に小学校の児童から1,2分のメッセージを幼稚園・保育園にあるとよい。 ・学校だよりをいつも楽しみに読んでいる。今後は、紙媒体ではなく PDF などにしてHP 公開でもよいのではないかと。 ・PTA が来年度導入予定の情報共有アプリ「がくぶり」を活用した情報共有、校外行事の様子などがわかるとよい。
4	<現状> ○高学年での教科担任制の実施、一人一分掌主任の徹底など業務遂行の効率化、情報の共有化を進めている。 ○学校課題研修として『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した指導方法の工夫』に向けて、研修を開始した。 <課題> ○組織的対応や業務内容の平準化が不十分で偏りが見られる。 ○経験の少ない教職員も多く、教師の専門性を高め、よい授業のイメージをもつことに困難な様子が見られる。	・学校課題研究による校内授業研究会の推進と、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励による教師の学びを促進する。またベテラン教師の指導力の伝承。	①学校課題研究を意図的・計画的に推進し、情報端末や各種のアプリケーションの効果的な活用についての時間と機会を確保する。 ②人事評価を通して、対話に基づく研修受講奨励をする。 ③経験の少ない教職員に対する、コーチングの視点に立った指導方法の工夫改善研修を充実させる。 ④「大砂土小学校パワーアップ講座」を開設し、ベテランの授業術等の伝承を図る。	①学校課題研究初年度として、意図的・計画的な立案と理論研究・授業研究の実践を図ることができたか。 ②対話に基づく研修受講奨励により、教職員が学校を支える力を獲得しようとして取り組むことができたか。 ③コーチングの理論に基づく教育相談や研修の機会を設定し、教員相互の OJT を実践することができたか。 ④「大砂土小学校パワーアップ講座」の開催を5回以上。	①「個別最適な学び・協働的な学び」という今日的な研究課題に取り組んだ。理論構築並びに指導者を3名招聘して研究授業も実施した。ICT 活用も含め、教職員の学校課題に関する学校評価結果は、よく当てはまるが「昨年度30%↗今年度39%」に上昇。 ②対話に基づく研修受講奨励は少数にとどまった。 ③機会を捉え OJT を実践することができた。 ④「大砂土小学校パワーアップ講座」は1回の開催にとどまった。校長による学級での算数指導は2クラス10時間分を超えた。	B	○来年度も今日的課題である「個別最適な学び」「協働的な学び」を深めるための学校課題研修を進める。その際には、個人的な研究ではなく全員の指導技術が高められるものとする。 ○ベテランの授業技術を伝承する「大砂土小学校パワーアップ講座」を6回以上実施する。	○概ね良好  (意見要望) ・働き方改革に関する具体的な内容の記述ががあるとよい。

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

実施日令和7年2月13日

